

鹿 児 島 県 総 合 教 育 セ ン タ ー
平 成 25 年 度 長 期 研 修 研 究 報 告 書

研究主題

社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導の在り方

— 思考の方法を生かした指導の工夫を通して —

枕 崎 市 立 立 神 小 学 校

教 諭 中 村 勝

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	研究についての基本的な考え方	2
(1)	社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導	2
(2)	社会的事象の意味を捉えさせるための「思考の方法」	3
(3)	目指す児童の姿	4
2	児童の実態	4
(1)	実態調査の方法	4
(2)	結果の分析と考察	4
3	社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導の構想	6
(1)	学習内容の構造化	6
(2)	1 単位時間における授業の構成	6
(3)	「思考の方法」を生かした発問	7
(4)	「思考の方法」を生かした発問と指導の在り方	8
4	検証授業Ⅰの実際	10
(1)	検証授業Ⅰの概要	10
(2)	検証授業Ⅰの実際	12
(3)	検証授業Ⅰの考察	18
(4)	検証授業Ⅱに向けての改善	18
5	検証授業Ⅱの実際	20
(1)	検証授業Ⅱの概要	20
(2)	検証授業Ⅱの実際	21
(3)	検証授業Ⅱの考察	27
IV	研究のまとめ	
1	研究の成果	28
2	今後の課題	28

※ 引用文献, 参考文献

I 研究主題設定の理由

知識基盤社会の到来とグローバル化の進展による急激な社会の変化に対応するために、思考力・判断力・表現力の育成に重点を置いた学習指導要領が平成20年に告示された。小学校学習指導要領解説社会編（以下、学習指導要領解説と表記）では、人々が営む社会生活について理解し、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養うことが示されている。そのために、言語活動を重視した問題解決的な学習を充実させるとともに、第3学年及び第4学年では地域の様子や公共機関の働き、第5学年では我が国の産業や環境、第6学年では我が国の歴史や政治等に見られる社会的事象について、資料等で調べた事実から考え、社会的事象の意味を捉えることができるように指導することを求めている。

このようなことを踏まえ、これまで実践してきた授業を振り返ってみると、「社会的事象の意味とは何か。」ということやそれを捉えさせる意義についての認識がまだ十分ではないことに気付いた。また、児童に資料等で調べさせ、考える時間を設定してきたが、児童によっては、考えが浮かばなかったり、事実のみを記述していたりする様子が見られた。このことから、児童がどのように考えればよいのかについての指導が十分ではなかったのではないかという実践上の課題にも気付いた。

そこで、本研究では、「社会科における社会的事象の意味」について明らかにしながら、「社会的事象の意味を捉えさせることの意義」を整理する。また、児童の思考過程に沿って、社会的事象の意味を「どのように考えさせるのか。」ということを教師の手立てとして具体化する。

学習指導要領解説では、考える社会科学習を重視する方針の中で、「比較」、「関連付け」、「総合」して考えさせることが示されている。本研究では、この「比較」、「関連付け」、「総合」を「思考の方法」と呼び、教師の具体的な手立てを工夫する際の手掛かりにすれば、学習指導法の改善を図れるのではないかと考えた。

以上のことから、本研究主題を「社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導の在り方ー思考の方法を生かした指導の工夫を通してー」と設定し、研究を進めることにした。

II 研究の構想

1 研究のねらい

- (1) 先行研究や参考文献から、「社会的事象の意味とそれを捉えさせる意義」について明らかにし、社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導についての基本的な考え方を整理する。
- (2) 社会科で考えることに対する意識や「思考の方法」の経験等についての実態調査に基づく分析や考察を行い、教師の具体的な手立てを考える視点にする。
- (3) 社会的事象の意味を捉えさせるために、「思考の方法」を生かした教師の具体的な学習指導法の工夫を明らかにする。
- (4) 検証授業を通して、研究を検証し、研究の成果や課題を明らかにする。

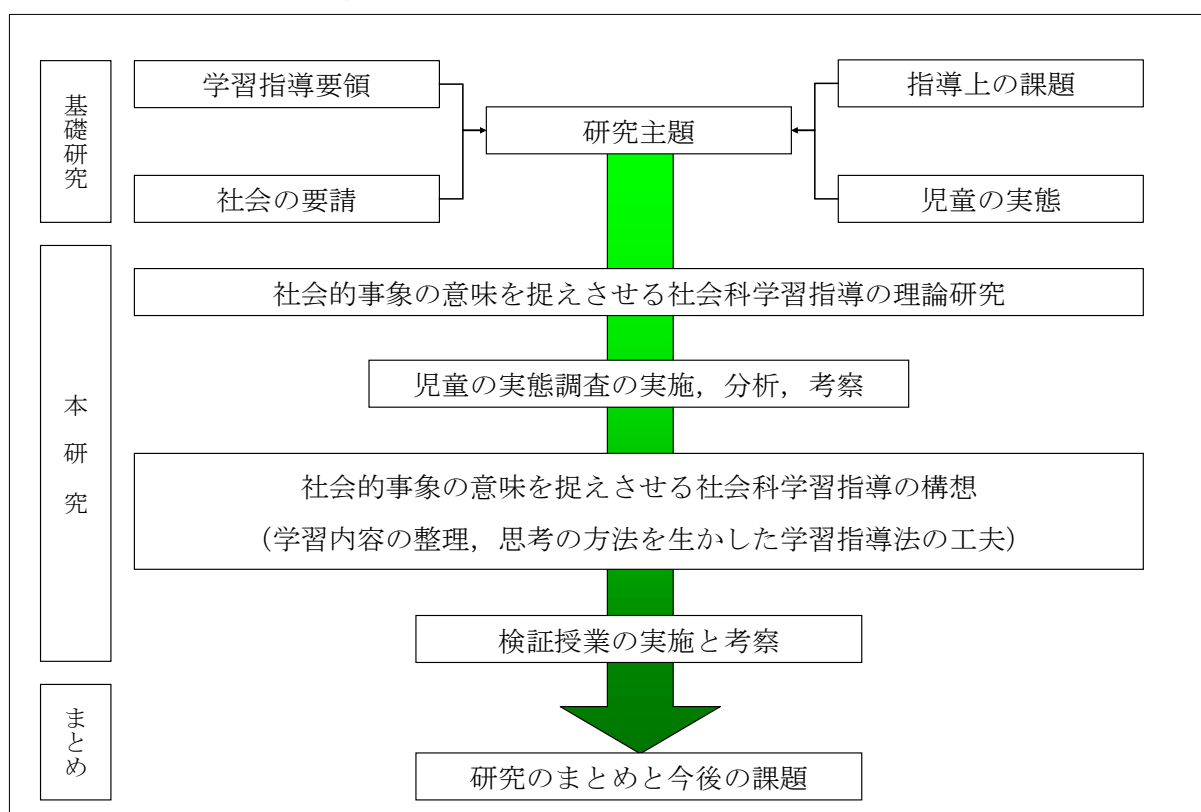
2 研究の仮説

本研究は、以下のような研究の仮説に沿って進めることにする。

社会科学習指導において、社会的事象の意味を明らかにし、「思考の方法」を生かした具体的な学習指導の工夫をすることによって、調べた事実を基に考えながら、社会的事象の意味を捉えさせることができるのではないかと考えた。

3 研究の計画

研究を進めるに当たって、以下のような研究の計画を立てた。



Ⅲ 研究の実際

1 研究主題についての基本的な考え方

(1) 社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導

本研究における社会科学習指導の在り方を研究する際、まず、「社会的事象」について定義した上で、社会的事象の意味やそれを捉えさせる意義を明らかにしていく。

ア 社会的事象とは

社会的事象について、『社会科重要用語300の基礎知識』*1)では、「社会的事象は、人物や集団の目的によって生じ、他の様々な事象と有機的な関連を有するのである。」と示されている。また、社会的事象は、「①人間に関する事象」、「②人間の行動に関する事象」、「③人間を取り巻く環境に関する事象」に分けられ、具体的に挙げられた事例は表1のようにまとめられる。

表1 社会的事象の分類

	内 容	具 体 例
① 人間に関する事象	・ 特定の人や集団 ・ 一般化された人や集団	・ 「□□工場で働く〇〇さん」, 「〇〇運輸」, 「工場労働者」, 「運送会社」等
② 人間の行動に関する事象	・ 人間の行動	・ 「自動車を作る。」, 「宅配便を届ける。」など
③ 人間を取り巻く環境に関する事象	・ 道具 ・ 諸制度	・ 「コンピュータ」, 「配送車」, 「プレス機」, 「会社」, 「法律」, 「国家」等

『社会科教育指導用語辞典』*2)では、社会的事象とは、「事実として具体的に知ることができる社会的な事柄や出来事」としている。

これらのことを参照し、社会的事象を、「目的を実現するために行っている具体的な人間の生活の営み」と捉える。

*1) 森分孝治, 片上宗二編 『社会科重要用語300の基礎知識』 2000年 明治図書

*2) 大森照夫編 『社会科教育指導用語辞典』 1986年 教育出版

イ 社会的事象の意味とは

学習指導要領の「内容」では、社会的事象の意味について、「～について考えるようにする。」と示されている。このことについて、澤井^{*3)} (2013)は、『『考えて身に付ける知識』(社会的事象の意味)は、単元あるいは小単元の学習を通して、最終的に身に付けさせる知識』と述べている。単元あるいは小単元で最終的に身に付けさせる知識は、各単位時間の知識、言い換えると、各単位時間の社会的事象の意味で構成されている。

このことから、各単位時間における社会的事象の意味を捉えさせることで、単元でおさえるべき社会的事象の意味も捉えさせることができると考える。

斉藤^{*4)} (2010)は、「資料から引き出した事実を比べたり、関連付けたり、時間の流れで考えたり、生活経験と対比したりすると、さまざまなことがわかってくる。それを、事実から考えた『意味』といっている。」と述べている。このことから、社会的事象の意味は、事実を基に、比較したり、関連付けたりして考えることで新たに見いだすものであることが分かる。

これらの考え方を参照し、本研究では、社会的事象の意味を、「人間の営みについて、比較したり、関連付けたり、まとめたりして新たに見いだしたこと」と捉えて研究を進めていく。

ウ 社会的事象の意味を捉えさせる意義

上述したことを踏まえ、社会的事象の意味を捉えさせる意義について、第3学年及び第4学年の学習内容「清掃工場で働く人々」を例に説明する。清掃工場で働く人々の仕事について、「曜日ごとにごみを収集している。」「ごみの分別を呼び掛けている。」などの具体的事実を調べさせるが、それだけで終わると、単に事実を捉えることになり、清掃工場で働く人々の仕事について理解させたとは言えない。そこで、調べた後、「なぜそのようにしているのか。

(何のためにしているのか。)」と児童に考えさせることが大切である。このことによって、教師は、「きれいな環境にするために、曜日ごとにごみを収集してくれているのだな。」「資源を大切にするために、分別を呼び掛けているのだな。」といったことを児童に理解させていく。

これらの学習を進めると、ごみの収集や分別の意味を理解し、自分たちにできることを考えようとする児童を育てることができると考える。

以上のことから、社会的事象の意味を捉えさせることによって、児童によりよい社会を形成しようとする資質や能力の基礎を身に付けさせることにつながると考える。

(2) 社会的事象の意味を捉えるための「思考の方法」

社会的事象の意味を捉えさせるためには、比較したり、調べた事実や知識等を関連付けたり、総合したりする考え方が必要である。本研究では、学習指導要領解説に示されている「比較」、「関連付け」、「総合」することを「思考の方法」と呼び、それを生かした学習指導によって社会的事象の意味を捉えさせようと考えた。ここでは、第5学年小単元「国土の気候の特色と人々の暮らし」において沖縄県を事例に、1単位時間の指導の中で、「思考の方法」について説明する。

沖縄県の気温や台風の襲来数などの気候、さとうきび栽培の様子を児童に調べさせ、自然条件と関連付けることで「沖縄県でさとうきびの生産がさかんな理由は、さとうきびは、暖かい気候でよく育ち、台風にも強く、沖縄県の気候に合っているからである。」という社会的事象の意味を捉えさせることをねらいとしている。

まず、「沖縄県は、日本の中でも気候が暖かく、台風がよく来る県である。」ということを理解させるために、沖縄県と他の都道府県（ここでは北海道を例に取り上げる。）を「比較」して気候の違いを明らかにする必要がある。

*3) 澤井陽介 『小学校社会 授業を変える5つのフォーカス』 2013年 図書文化社

*4) 社会科教育研究センター編 『いまこそ社会科探究学習』 2010年 三晃書房

次に、「暖かい気候で育つ。」「日差しに強い。」「台風に強い。」などのさとうきびに関することについて調べたことを基に、「なぜ、沖縄県では、さとうきびがよく育つのだろうか。」と問い、自然条件とさとうきびに関することを「関連付け」て考えさせるようにする。

最後に、「比較」「関連付け」して分かったことについて、「つまり、どんなことが言えるか。」と「総合」することで、「沖縄県でさとうきびの生産がさかんな理由は、さとうきびは、暖かい気候でよく育ち、台風にも強く、沖縄県の気候に合っているからである。」ということを捉えさせることができると考える（図1）。

(3) 目指す児童の姿

本研究によって目指す児童の姿を以下のように捉えた。

- 社会科の学習で「思考の方法」を意識して考える児童
- 社会的事象の意味について考え、表現できる児童

2 児童の実態

(1) 実態調査の方法

ア 調査日 平成25年6月4日（火）

イ 調査対象及び調査方法 枕崎市立立神小学校 第5学年ろ組23人 質問紙法（一部記述法）

(2) 結果の分析と考察

ア 考えることに関する意識調査

図2から、多くの児童が、考えることについて関心をもっていることが分かる。好きな理由を記述させたところ、主なものとして、「分かったとき、楽しい。」と答えている。好きではない理由としては、「どのように考えてよいのか分からない。」「何を書けばよいのか分からない。」と答えており、考えるときに視点をもてず、迷っている児童がいることが分かる。

イ 「思考の方法」の経験に関する意識調査

図3を見ると、「比較」について、児童の多くが意識していることが分かる。社会科に限らず、日常生活や各教科等の学習の中でも、比較をして、共通点（類似点）や相違点を見いだす経験を多くしているからだと考えられる。

「関連付け」については、「経験あり」に対し、「分からない」「経験なし」と回答した児童が多い。調べたことをどのようにつなげて考え

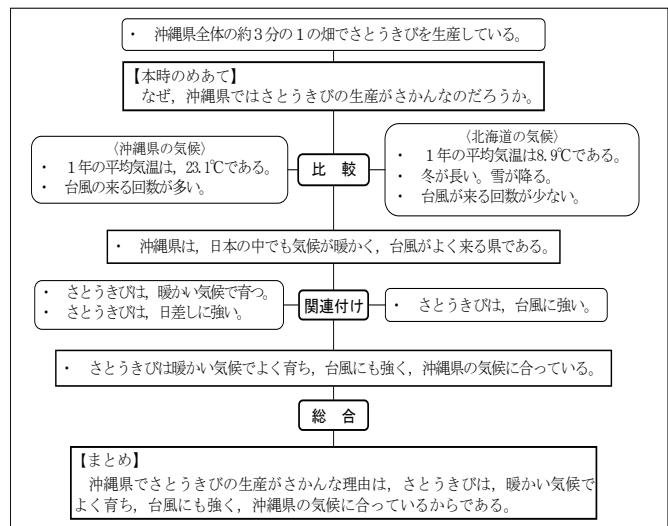


図1 社会的事象の意味を捉えていく過程

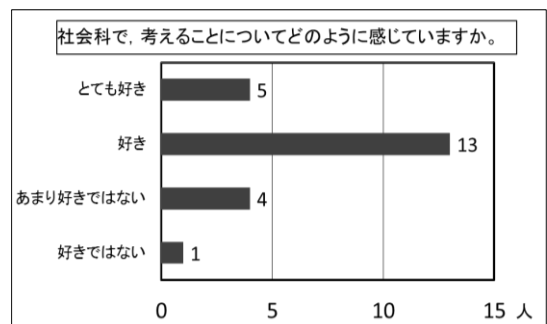


図2 考えることに関する意識調査結果

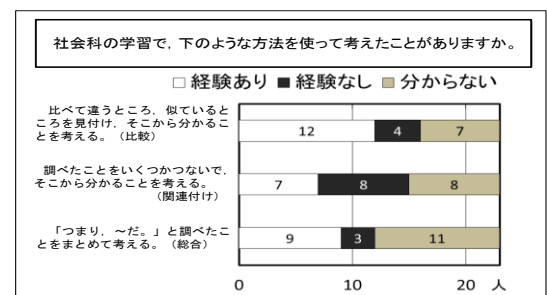


図3 思考の方法の経験についての調査結果

てよいか分からなかったり、つなげて考えることを意識することが少なかったりしたためと推察される。

「総合」については、「分からない」と回答した児童が多い。無意識でまとめていたり、どのようにまとめるのか分からなかったりしたのではないかと考える。

このことから、「比較したら、違いがよく分かる。」「自分が調べたことと〇〇の資料をつなげて考えると、新たなことが分かる（関連付け）。」「学習で分かったことをまとめると〇〇とすることができる。」といった「思考の方法」のよさや考える楽しさを感じさせる学習ができるように、教師の具体的な手立てを考える必要がある。

ウ 資料から事実を読み取れるかをみる調査

図4のグラフを提示し、「日本に在住する外国人が一番多い年は、2010年である。」という個別の事実、「日本にいる外国人は増えてきている。」という全体的な傾向を正確に読み取ることができるか調査したところ、ほぼ全員が読み取ることができた。

しかし、グラフの全体的な傾向について、2人が記述できなかった。このことから、資料について、個別の事実を読み取らせるとともに、「どのように変化しているか。」といった全体的な傾向も読み取らせる活動を意図的に経験させる必要がある。

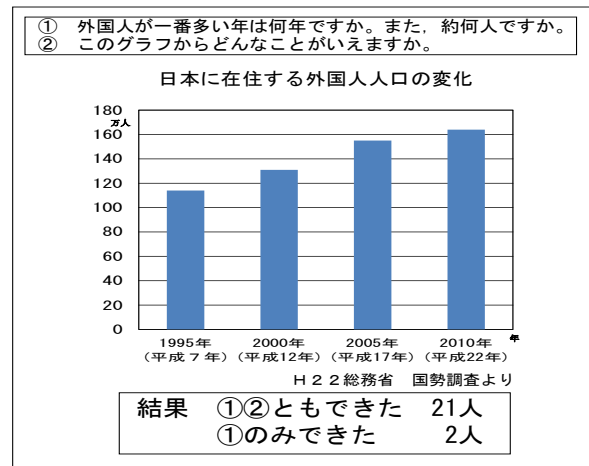


図4 事実を読み取る調査結果

エ 既習経験と関連付けて考えることをみる調査

治水や自然条件等を生かした岐阜県海津町の米作りの既習経験を基に、米の生産がさかんな理由を記述できるか調査したところ、結果は図5のようになった。学級の約半数が、既習事項である治水や気候、地形等の自然条件と関連付けて記述することができた。しかし、自然条件と関連付けて考

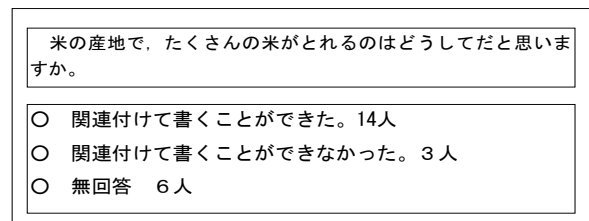


図5 関連付けの調査結果

えられなかった記述内容を見ると、「米がたくさんできるから。」などがあり、記述する時に「水が豊富」、「海津町の気温が稲作に合っている」、「田に適した平野がある。」などの自然条件を表す言葉が不足している児童が見られた。また、無回答の児童も6人いた。このことから、関連付けをさせる際には、社会的事象や事実を明確に示して関連を考えさせる指導が必要であると考えられる。

オ 比較して相違点や共通点を見付け、総合する調査

図6のような2枚の地図を提示して比較させたところ、結果は図7のようになった。

このことから、「比べて、気付いたこと」と問われると、児童は、相違点に着目する傾向が見られる。

共通点（類似点）については、学校の位置に気付いているが、駅や橋については、多くの児童が気付いていないことが分かる。また、気付

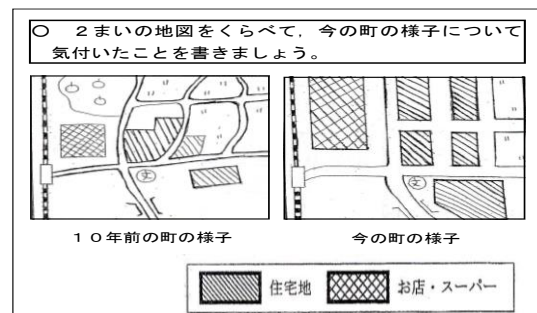


図6 10年前と今の町の地図

いたことを総合して町の様子を記述させたところ、全員書くことができた。

しかし、気付いた事実の数に違いがあり、多くの事実から町の様子をまとめる児童は少なかった。

以上のようなことから、相違点や共通点を意識させながら、多くの事実を見付ける経験をさせたり、まとめさせたりすることが必要である。

○ 相違点に気付いた人数	23人
○ 共通点（類似点）に気付いた人数	2人
○ 相違点について記述内容	・道の広さや整備状況 ・店の広さ ・住宅の数 ・田や果樹園の面積
○ 共通点（類似点）の記述内容	・学校の場所
○ 町の様子についてまとめられた。	23人
・ 1～2つの事実からまとめている。	10人
・ 3～4つの事実からまとめている。	11人
・ 5～6つの事実からまとめている。	2人

図7 調査結果

3 社会的事象の意味を捉えさせる社会科学習指導の構想

(1) 学習内容の構造化

「思考の方法」を生かして社会的事象の意味を捉えさせるには、教材研究の段階で学習内容の構造化を図り、児童に何を調べ、何を考えさせるのかを整理しておく必要がある。学習内容の構造化とは、児童に捉えさせたい内容の吟味や明確化、それをどのような順序で捉えさせていくかといった配列等を考えることである。例えば、「寒い土地の人々の暮らし」において、北海道の場合は、図8のような学習内容の構造化が考えられる。

具体的には、第1時で学習問題を設定し、第2時では、北海道の家に見られる二重窓や灯油タンク、月別平均気温を調べさせた後、他の都道府県の家の様子と比較させたり、気候と家の様子を関連付けて考えさせたりして、「北海道では、気候に合わせて、住居を二重窓にするなどの暮らしの工夫をしている。」などのように総合して捉えさせる。

第3時、第4時も同様に「比較」、「関連付け」、「総合」しながらそれぞれの時間における社会的事象の意味を捉えさせていく。第5時（小単元の終末）では、①、②、③、④で見いだした内容を総合して、「北海道に住む人々は、自然環境を生かして生活や産業を営んだり、アイヌ文化を守る取組をしたりしている。」という単元で押さえるべき社会的事象の意味を捉えさせるようにしていく。学習内容を構造化することで、教師は単元や1単位時間における「調べさせること」、「考えさせること」とそれぞれのつながりを明確にすることが大切である。

(2) 1単位時間における授業の構成

学習内容を構造化し、それを基に1単位時間の「つかむ」、「調べる」、「まとめる」の各過程で、「思考の方法」を生かした学習活動を位置付ける必要があると考えた。表2は、1単位時間の授業を構成するための主な学習活動を例示したものである。例えば、「つかむ」段階には4種類の学習活動例を示しているが、この中から学習内容や児童の実態等に応じていくつか選択し、授業を構成していく。先に述べた「寒い土地の人々の暮らし」の第2時の「つかむ」過程で具体的に説明する。

まず、「北海道は、冬が長く、寒さが厳しい。」ということを理解させるために、「資料を比較し、相違点や共通点を見付ける。」という学習活動を選択する。ここでは、1月の鹿児島県と北

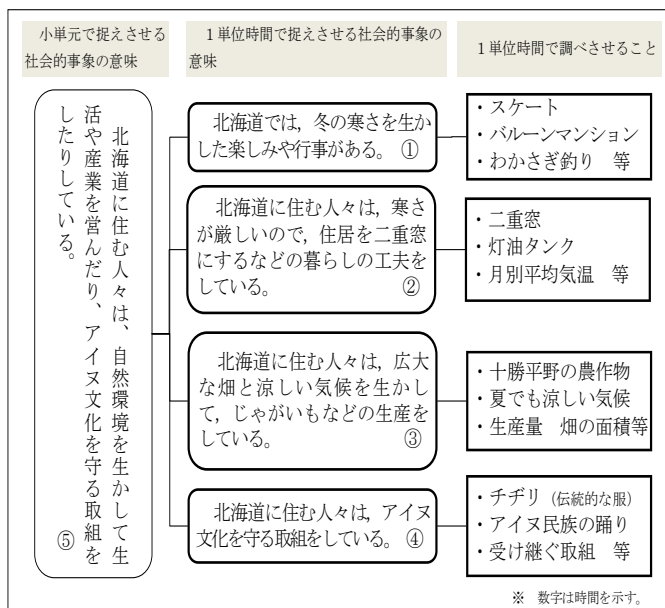


図8 学習内容の構造化

海道の生活の様子や平均気温等を比較させ、相違点を考えさせる。

次に、「冬は長く、寒さが厳しい北海道に住む人たちは、どのようにして生活しているか。」を考えさせるために、「社会的事象や事実について、『なぜだろうか。』、『どのようにしているだろうか。』などの疑問をもち、互いの考えを比較等しながら本時のめあてを設定する。」という学習活動を選択する。その活動において、自分なりの考えを発表し、互いに意見を比較しながら、「北海道に住む人たちは、きっと何か寒さ対策をしているはずだ。」という問題意識に高めていくようにする。

このように、構造化した学習内容について、「思考の方法」

表2 「思考の方法」を生かした学習活動例（1単位時間）

学習過程	主 な 学 習 活 動 例	思考の方法
つかむ	○ 写真やグラフなどの資料から「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「どうしているか」の観点で、ありのままに事実を読み取る。	
	○ 本時の学習について、見学で分かったことやこれまでの生活経験、学習経験等を発表する。	
	○ 資料を比較し、相違点や共通点を見付ける。	比 較
	○ 社会的事象や事実について、「なぜだろうか。」、「どのようにしているだろうか。」などの疑問をもち、互いの考えを比較等しながら本時のめあてを設定する。	比 較
調べる	○ 写真やグラフなどの資料から「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「どうしているか」の観点で、ありのままに事実を読み取る。	
	○ 調べたことを基に、社会的事象や事実を比較して、相違点や共通点を考える。 例・ 相違点 「増減」、「大小」、「長短」、「新旧」、「高低」 ・ 共通点 「どちらも～している。」、「どちらも～が同じだ。」	比 較
	○ 事実や相違点、共通点から疑問をもち、理由を考える。 ・ 「どうして、～と違う（同じ）のだろうか。」	
	○ 社会的事象や事実を調べたことと関連付けて考える。 例・ 「～だから～している。」 ・ 「～なのは、～が原因だ。」 ・ 「～は、～のためにしている。」 ・ 「～という条件がそろると、～になる。」 ・ 「もし、～だったら～になるだろう。」	関連付け
まとめる	○ 学習したことを整理し、本時における社会的事象の意味をまとめる。 例・ 「つまり、～ということだ。」 ・ 「まとめると、～だと言える。」	総 合

を生かした学習活動例をあらかじめ想定することで、授業が構成しやすくなり、調べたことを基に考え、社会的事象の意味を捉えさせる社会科の授業を実践することができる。

(3) 「思考の方法」を生かした発問

教師が学習活動の中で、「比較して考えなさい。」、「関連付けして考えなさい。」、「総合して考えなさい。」と指示しても、児童は、「何と何を比べればよいのか。」、「何と何を関連付ければよいのか。」、「どんなことを総合すればよいのか。」が分からない。つまり、「比較」、「関連付け」、「総合」の言葉だけを児童に言っても機能しにくいと考える。

そこで、それぞれの「思考の方法」が効果的に機能するように、教師の発問を工夫する必要があると考えた。表3はそれぞれの「思考の方法」の機能と発問例を整理したものである。

「比較」には、二つ以上の社会的事象や事実を比較して相違点や共通点（類似点）を見いだす機能があり、それによって事実を把握させることができる。

「関連付け」には、社会的事象をつながりのあるものとして考えることができる機能があり、それによって、様々なつながりの中で社会的事象が成り立っていることを捉えさせることができる。「関連付け」の発問は、「なぜか。」と問うことで多面的に社会的事象や事実同士の関連を考えさせることができる。また、「関連付け」では、「～になったのは、何が原因なのだろうか。」など、関係性を限定して（この発問の場合、「原因－結果」の関係）捉えさせる発問も考えられる。

「総合」には、学習してきたことを全体的に見て、これまで分かったことを整理する機能があり、1単位時間や小単位における社会的事象の意味を捉えさせることができる。

思考の方法を生かした発問をすることで、児童は「どのように考えたらよいのか。」を理解し、社会的事象の意味を捉えることができると考える。

表3 「思考の方法」の機能と発問例

機能と発問 思考の方法	機 能	思考の方法を生かした発問例
比 較	○ 相違点による事実の把握 ○ 共通点による事実の把握 ○ 問いや予想を見いだす手掛かり	○ ～と比べて違うところは何ですか。 ○ ～と比べて同じ（似ている）ところは何ですか。 ○ ～を比べて、○○と□□に分けましょう。 ○ なぜ、～が違う（同じ・似ている）のでしょうか。
関 連 付 け	○ 社会的事象の多面的な関連の把握 ○ 「原因－結果」の関係の把握 ○ 「目的－手段」の関係の把握 ○ 「条件－結果」の関係の把握 ○ 「仮定－結果」の関係の把握	○ なぜ、～しているのでしょうか。 ○ ～になったのは、何が原因なのだろうか。 ○ ～は、何のためにしているのだろうか。 ○ どんな条件がそろって～となるのだろうか。 ○ もし、～だったら、どうなるだろうか。
総 合	○ 1単位時間または小単元終末における社会的事象の意味の把握	○ 学習のめあてについて、どのようにまとめられますか。 ○ つまり、どんなことだと言えますか。

(4) 「思考の方法」を生かした発問と指導の在り方

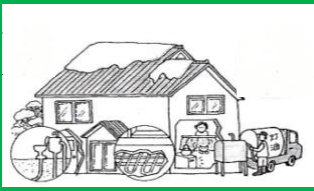
「比較」、「関連付け」、「総合」させて考える具体的な場面を取り上げ、指導のポイントと表3に示した発問例の活用について説明する。（※ 使用している挿絵やグラフは、社会科を楽しくする会著「イメージマップで楽しく学べる社会科習熟プリント 2011年」から引用。）

ア 「比較」して考えさせる場面

(ア) 指導のポイント

比較によって互いの相違点を明らかにした後、「なぜ、違うのか。」と発問することで、問題意識をもたせることができる。（共通点の場合も同様に、「なぜ、共通しているのか。」と発問する。）

(イ) 「比較」の発問

北海道	沖縄
 ・二重窓にしている。 ・灯油タンクがある。 ・屋根が急だ。	 ・石垣ががんじょう。 ・木が植えてある。 ・風通しがよさそう。
 北海道と沖縄県の家を<u>比べ</u>て、<u>違うところは何ですか。</u>	 北海道の家は、二重窓や灯油タンクがあります。沖縄県の家は、石垣や木があります。
 <u>なぜ</u>、北海道と沖縄県の家は<u>違う</u>のでしょうか。	 たぶん、場所が違うからかもしれないな。それとも気候が関係しているから違うのかな。

イ 「関連付け」して考えさせる場面

(ア) 指導のポイント

グラフ「堺市のみかん栽培面積の移り変わり」を提示し、年々減ってきていることを捉えさせる。次に、堺市のみかん栽培の実態を調べさせる。その後、「なぜ、(何が原因で) 栽培面積が減ったのだろうか。」と発問することで、調べた事実と栽培面積の減少を「原因－結果」の関係で把握させることができる。

(イ) 「関連付け」の発問

**堺市のみかんのさいばい面積の
うつりかわり**

(年)	
1980 (昭和 55)	□□□□□□□□□□
1985 (昭和 60)	□□□□□□□□□□
1990 (平成 2)	□□□□□□
1995 (平成 7)	□□□□

□ 10ha

後継ぎの問題

みかんの輸入

みかんの栽培面積が減っている。

堺市のみかん栽培面積の移り変わりのグラフを見ると、どんなことが分かりますか。

堺市のみかんの栽培の様子を教科書等で調べてみよう。

なぜ（何が原因で）、みかんの栽培面積が減ったのでしょうか。

→

みかんの栽培面積が減っているよ。どうしてかな。

後継ぎが少ないという問題と外国からの輸入が多くなったということが分かりました。

後継ぎ問題や外国産のみかんの輸入があったから、栽培面積は減ったのだと思います。

ウ 「総合」して考えさせる場面

(ア) 指導のポイント

それぞれの仕事をする理由について考えさせる。次に、「つまり、スーパーマーケットで働く人についてどんなことが言えますか。」と発問する。このことから、全体的に見て、「スーパーマーケットで働くことは、買う人のために、工夫して仕事をしている。」などの社会的事象の意味を捉えさせることができる。

(イ) 「総合」の発問

スーパーマーケットの仕事



商品の補充

品物がなくならないようにする。



品物を調べる

期限が切れていないか確かめる。



刺身にする

すぐに刺身が食べられるようにする。



案内所

困ったときに相談できるようにする。

スーパーマーケットのそれぞれの仕事は、なぜ（何のために）、しているのかな。

→

買う人が安心して買えるように、期限を調べてます。

困ったことがあっても、お客さんが相談できるように案内所があります。

(中略)

つまり、スーパーマーケットで働く人について、どんなことが言えますか。

→

スーパーマーケットで働く人は、買う人のために、工夫して仕事をしています。

- 9 -

4 検証授業Ⅰの実際

検証授業Ⅰでは、「思考の方法」を生かした「比較」、「関連付け」の発問によって、具体的事実を基に考えたり、「総合」の発問によって、本時のねらいである社会的事象の意味について記述したりすることができたかを児童の反応やノートの記述内容を見取って検証する。

(1) 検証授業Ⅰの概要

ア 実施時期 平成25年7月実施

イ 対象 枕崎市立立神小学校 第5学年ろ組23人

ウ 小单元名 「米づくりのさかんな庄内平野」

エ 小单元の目標

(ア) 我が国の米の生産の様子について関心をもち、意欲的に取り組むことができる。

(イ) 品質のよい安全な米を生産するために、自然条件を生かして生産の工夫をしていることや早く消費地へ届ける運輸の働きなどについて考え、適切に表現することができる。

(ウ) 自分の調べたことや分かったことを明確にするために、図に表すなどしてまとめることができる。

(エ) 自然環境を生かして米の生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きなどを捉え、国民の食生活において、米の生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解することができる。

オ 学習内容の構造化

小单元「米づくりのさかんな庄内平野」において、10時間の学習内容を図9のように構造化した。(※ 新しい社会5年上 東京書籍 平成23年度版を使用。)

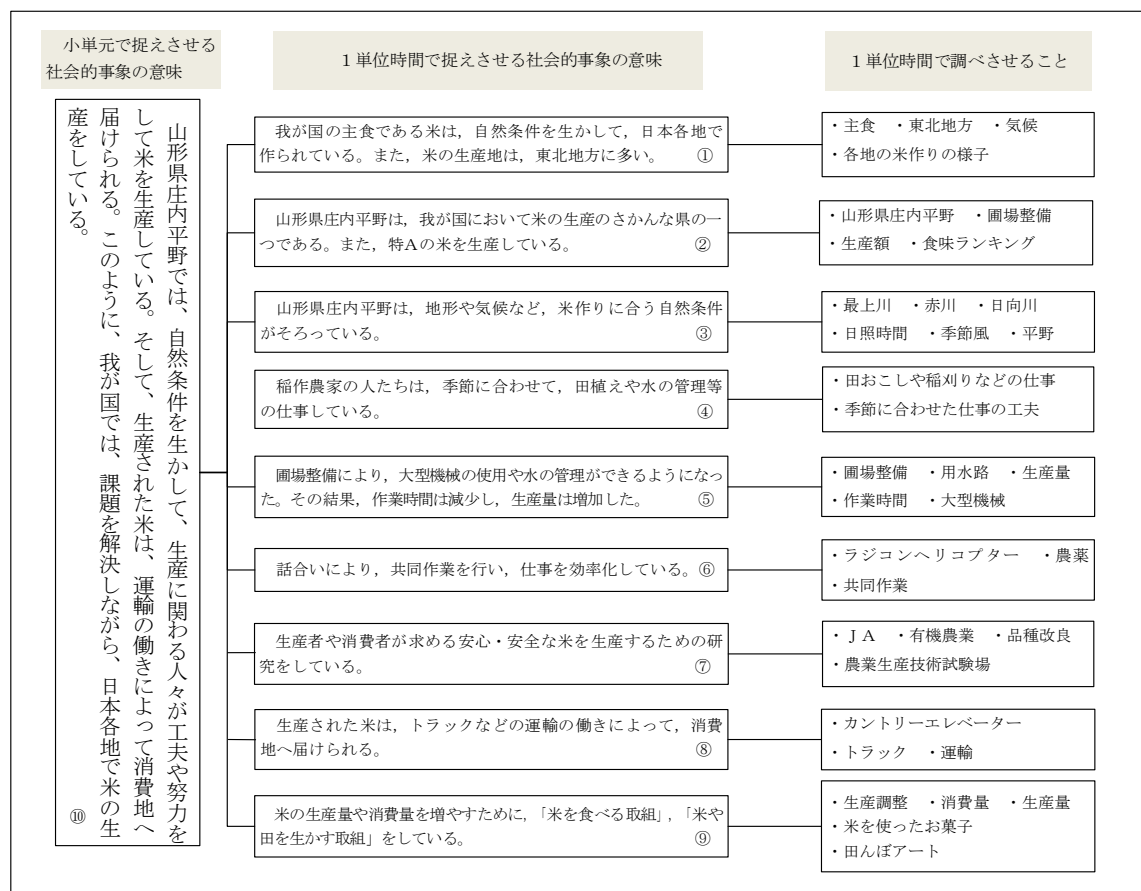


図9 小单元「米づくりのさかんな庄内平野」における学習内容の構造化

カ 学習内容の構造化と関連させた小単元の指導計画

本研究では、学習内容の構造化と指導計画の関連が分かるようにするために、指導計画に「学習活動」と「各時間で捉えさせる社会的事象の意味」の項目を設定することにした。

このようにすることで、捉えさせたい社会的事象の意味に即して、中心となる学習活動を設定することができると考えた。

指導計画 小単元「米づくりのさかんな庄内平野」 全10時間

過程	学習活動	時数	各時間で捉えさせる社会的事象の意味
つかむ	1 日本各地の米作りの様子を比較して特色を考える。	①	○ 我が国の主食である米は、自然条件を生かして、日本各地で作られている。また、米の生産地は、東北地方に多い。
	2 鹿児島県と山形県の米について食味ランキングの結果を比較して、学習問題をつくる。	②	○ 山形県庄内平野は、我が国において米の生産のさかんな県の一つである。また、特Aの米を生産している。
	山形県では、どうしておいしい米を生産することができるのだろうか。また、生産された米はどのように消費者に届けられるのだろうか。		
調べる	3 学習問題について予想し、調べる計画を立てる。 ○ 自然環境について ○ 人々の工夫について ○ 運輸の働きについて		
	4 山形県の土地や気候等を調べ、米作りがさかんな理由について話し合う。	③	○ 山形県庄内平野は、地形や気候等、米作りに合う自然条件がそろっている。
	5 季節ごとの仕事を比較したり、季節によって仕事が違う理由について話し合ったりする。	④	○ 稲作農家の人たちは、季節に合わせて、田植えや水の管理等の仕事をしている。
	6 圃場整備前後を比較して、作業時間の減少と生産量が増加した理由について話し合う。	⑤	○ 圃場整備により、大型機械の使用や水の管理ができるようになった。その結果、作業時間は減少し、生産量は増加した。
	7 稲作農家が集会で話し合う内容等を調べ、共同作業や共同購入をする理由について話し合う。	⑥	○ 話し合いにより、共同作業を行い、仕事を効率化している。
	8 有機農業や品種改良について調べ、それらを行う理由について話し合う。	⑦	○ 生産者や消費者が求める安心・安全な米を生産するための研究をしている。
	9 運輸の仕方や工夫を調べ、それらを行う理由について話し合う。	⑧	○ 生産された米は、トラックなどの運輸の働きによって、消費地へ届けられる。
	10 米に関わる問題について調べ、これからの米作りについて話し合う。	⑨	○ 米の生産量や消費量を増やすために、「米を食べる取組」、「米や田を生かす取組」をしている。
まとめる	11 学習のまとめをする。	⑩	○ 山形県庄内平野では、自然環境に合わせて、生産に関わる人々が工夫や努力をして米を生産している。そして、運輸の働きによって、生産された米は消費地へ届けられる。このように、我が国では、課題を解決しながら、日本各地で米の生産をしている。 【小単元における社会的事象の意味】

(2) 検証授業Ⅰの実際

ア 第1時

(ア) 本時における「思考の方法」を生かした発問について

本時のねらいは、日本の主食である米が、気候や地形に合わせて、各地で生産されていることを捉えさせることである。まず、気候や地形に合わせて生産されていることについては、教科書にある6枚の都道府県（山形県、沖縄県、高知県、石川県、埼玉県、北海道）の写真をそれぞれ比較して相違点を見付けさせ、特色を捉えさせる。次に、共通点を見付けさせ、どの都道府県でも米を生産していることを捉えさせる。

以上のことから、本時のねらいを達成できると考え、「思考の方法」を生かした発問を次のように設定した。

- | | |
|---------------------------|------|
| ○ この6枚の写真を見て、違うところは何だろうか。 | 【比較】 |
| ○ この6枚の写真を見て、同じところは何だろうか。 | 【比較】 |
| ○ まとめると、どんなことが言えるだろうか。 | 【総合】 |

(イ) 実際

学習過程	児童の主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
つかむ	1 米を使った身近な食べ物について発表する。	○ 米が身近な食べ物であることを感じさせるために、米を使った料理について発表させる。
調べる	2 日本各地の米作りの様子の写真を見て、疑問を出し合い、学習のめあてを設定する。 主食である米は、日本のどこで、どのように作られているのだろうか。	○ 「日本のどこで作られているか。」という問題意識をもたせるために、人や仕事、周りの様子等に注目させる。
	3 どこで作られているのか調べる。	○ 教科書を基に、どこで生産されているのか調べる。
	4 日本各地の米作りの様子を比較して、相違点を見付ける。【学習活動4】 沖縄県では、他の県と違って、もう稲刈りをしているよ。どうしてかな。 	【資】 各地域の米作りの様子（教科書資料） ○ 米作りの様子を写した6枚の写真（山形県、沖縄県、高知県、石川県、埼玉県、北海道）を比較し、場所の違い、稲の育ち具合等の違いなどから、各都道府県の米作りの特色を捉えさせる。
まとめる	5 日本各地の米作りの様子を比較し、共通点を見付ける。【学習活動5】 地形や気候が違っていても、米作りをしているよ。 	○ 共通点を見付けさせ、気候や地形等の特色を生かした日本各地の米作りを捉えさせる。
	6 8つの地方に分けた日本の地図を見て、米の生産量の多い地方について調べる。	【資】 8つの地方を示した日本地図 ○ 生産量が多い地方を各自予想し、東北地方を中心に米の生産量が多いことを資料集で確認させる。
	7 学習のまとめをする。【学習活動7】 米作りは、日本各地で行われている。東北地方は生産量が多い。また、場所や気候によって米作りに違いがある。	○ 本時で学習して分かったことについて、「主食」、「東北地方」等のキーワードを基にしてまとめさせる。

学習活動4, 5, 7は次のページの学習活動4, 5, 7と対応している。

学習活動4 日本各地の米作りの様子を比較して、相違点を見付ける。【比較】

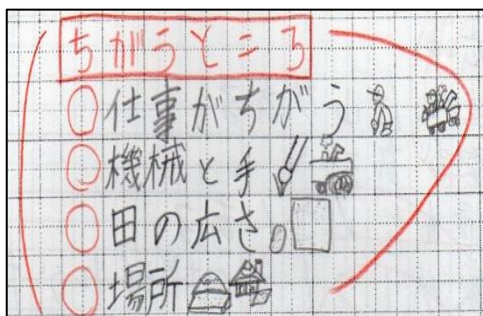


写真1 相違点を記述したノート

T **比較** この6枚の米作りの様子の写真を見て、違うところは何かな。

C 沖縄県だけは稲刈りをしています。

T 仕事が違うってことだね。

C 機械でやっているのと手作業でやっています。

C 田の広さが違います。

C 埼玉県だけ住宅の近くで作っています。

T 同じ6月のころの写真ですが、米作りの様子はそれぞれ違ってしていますね。

学習活動5 日本各地の米作りの様子を比較し、共通点を見付ける。【比較】



写真2 共通点を考えさせる様子

T **比較** この6枚の写真を見て、同じところは何だろうか。

C どちらも山の近くで作っていると思います。

T なるほど。確かにそうだね。でも埼玉県だけは山の近くではないみたいだよ。

C どの県も稲を植えている。

T どうですか。

C 全部、米作りをしている。

T どの都道府県も米作りをしていますね。

学習活動7 学習のまとめをする。【総合】



写真3 本時の学習をまとめさせている様子

T 今日のめあては何だったかな。

C (めあてを読む。)

T **総合** まとめて、どんなことが言えるかな。

T 黄色で書いた言葉を基に、まとめてみよう。

イ 第6時

(ア) 本時における「思考の方法」を生かした発問について

本時のねらいは、効率よく仕事をするために、話し合ったり、共同購入や共同作業をしたりしていることを捉えさせることである。そこで、ラジコンヘリコプター（以下、ヘリコプターと表記）での農薬散布と歩いて農薬散布する様子を比較させ、相違点を明らかにする。次に、「ヘリコプターで農薬散布をすることに決めたのはなぜか。」と問い、作業時間の短縮や安全面等と関連付けて考えさせる。共同購入や共同作業については、事実を調べても必要性を感じにくいので、大型機械の価格を提示し、「自分が買うとしたら、どのようにして買うか。」と仮定して考えさせる。このことによって、共同購入や共同作業をする必要性に気付くことができる考えた。

以上のことから、本時における「思考の方法」を生かした発問を次のように設定した。

- | | |
|--------------------------------------|--------|
| ○ 2枚の写真を比べて、違うところは何だろうか。 | 【比較】 |
| ○ 岡部さんたちは、なぜ、ヘリコプターで農薬をまくことに決めたのだろう。 | 【関連付け】 |
| ○ もし、自分たちが岡部さんだったらどんな買い方をするだろうか。 | 【関連付け】 |
| ○ まとめて、どんなことが言えるだろうか。 | 【総合】 |

(イ) 実際

学習過程	児童の主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
つかむ	1 岡部さんが話し合いをしている様子からめあてを設定する。 岡部さんたちは、どんなことを話し合っているのだろうか。また、なぜ話し合うのだろうか。	写真 稲作農家の話し合いの様子 ○ 「どんなことを話し合っているか。」と問い、予想を出し合いながら問題意識を高める。 ○ 予想を基に、教科書で調べる。
調べる	2 岡部さんたちが話し合っている内容について調べる。 3 ヘリコプターで農薬散布をすることに決めた理由について考え、話し合う。【学習活動3】 ヘリコプターの方が楽で、短い時間で作業が終わりそうだよ。 	写真 農薬散布の写真2枚 ○ ヘリコプターでの農薬散布と歩いて農薬散布する様子を比較して相違点を考える。また、ヘリコプターでの農薬散布をする理由を、安全面と作業効率の面と関連付けて捉えさせる。
	4 機械の価格を基に、購入する方法について話し合う。【学習活動4】 お金を出し合って買えばいいと思う。 	写真 大型機械及びその価格 ○ 機械の価格を提示し、多額の費用がかかることから、共同購入をし、共同作業していくよさを捉えさせる。
まとめる	5 学習のまとめをする。【学習活動5】 岡部さんたちは、米作りの仕事について話し合っている。それは、共同購入や共同作業により、効率よく仕事を進めるためだ。	○ 「共同購入」、「共同作業」等のキーワードを基に、本時の学習のまとめをさせる。

※ 産業用無人ヘリコプターのデータを基にして提示している。

※ 各種機械の価格は、児童用資料集を参考に提示している。

学習活動3 ヘリコプターで農薬散布をすることに決めた理由について考え、話し合う。
【比較及び関連付け】



写真4 ヘリコプターで農薬散布をする理由について考えている様子

- T **比較** 2枚の写真を比べて、違うところは何だろう。
- C 農薬のまく量が違います。
- T こっちは？（歩いて農薬散布する様子を指して）
- C 多い。
- T こっちは（ヘリコプターでの農薬散布を指して）
- C 少ない。
- T **関連付け** 岡部さんたちはなぜ、ヘリコプターで農薬をまくことに決めたのだろう。
- C 楽だからだと思う。
- C 速くまくことができるから。【作業効率への気付き】
- T 農薬をたくさん使いすぎるとどうなるのかな。
- C おいしくなくなる。
- C 食べられなくなる。【安全面への気付き】
- T ヘリコプターでまくやり方だと・・・
- C 安全で、短時間でできる。

学習活動4 機械の価格を基に、購入する方法について話し合う。【関連付け】

- T **【関連付け】** もし、自分たちが岡部さんだったらどんな買い方をするだろうか。
- C お金持ちに買ってもらう。
- C J Aから借りる。
- C 借金して買う。
- T 岡部さんは、1500万円も借金するってことかな。
- C みんなでお金を出し合う。【共同購入への気付き】
- C 集金して集める。
- T では、〇〇君と〇〇さんと〇〇君でお金を出し合います。そして、〇〇君だけ使います。どうかな。
- C だめ。
- T なんでだめなの。
- C お金を出しているわけだから一人だけ使うのはだめ。貸し合う。【共同作業への気付き】
- C 一人が使っているときは、他の田もしてあげる。【共同作業への気付き】
- T なるほど。実際そういうことをやっているのですよ。（この後、教科書で確認。）

学習活動5 学習のまとめをする。【総合】



写真5 学習を振り返り、総合させる様子

- T 今日のめあては何だったかな。
- C （めあてを読む。）
- T **総合** まとめるとどんなことが言えるかな。

ウ 第1時における児童のノートと板書の様子

(ア) 児童のノート例

第1時において、まとめさせた（総合）児童のノートは、図10のようになった。

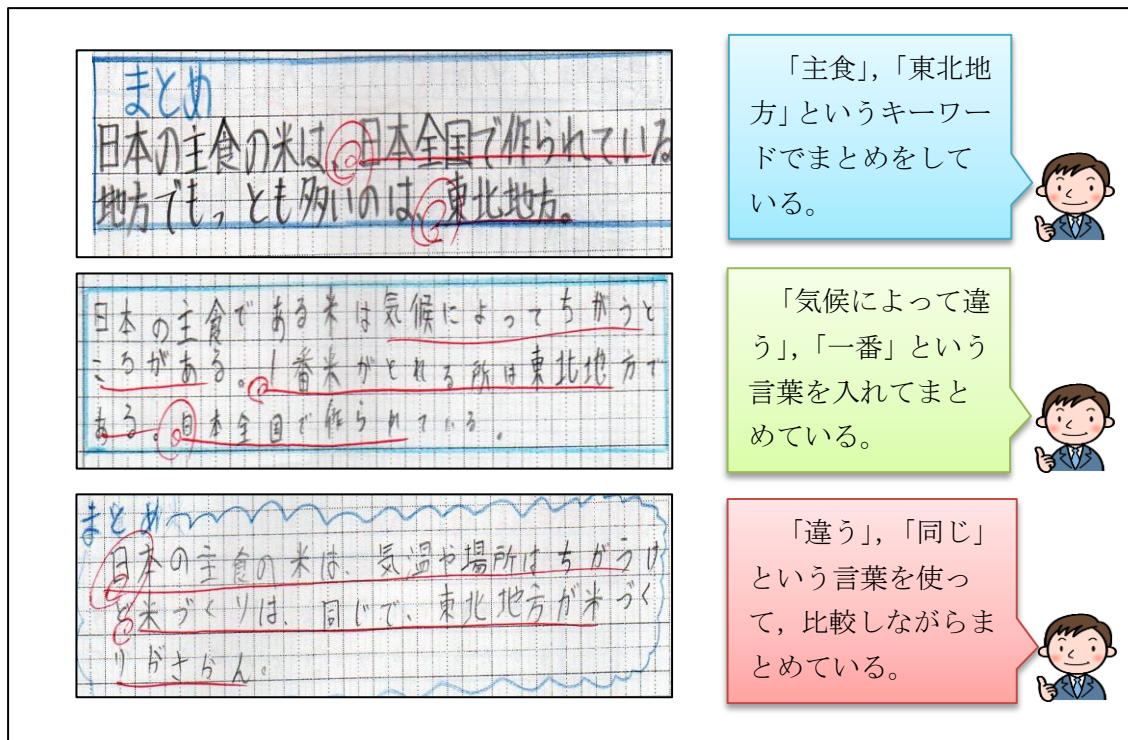


図10 第1時における児童のノート

(イ) 板書の様子

第1時の学習の板書は、小単位における最初の学習であるので、図11のように、児童が考えやすいように構造化した。

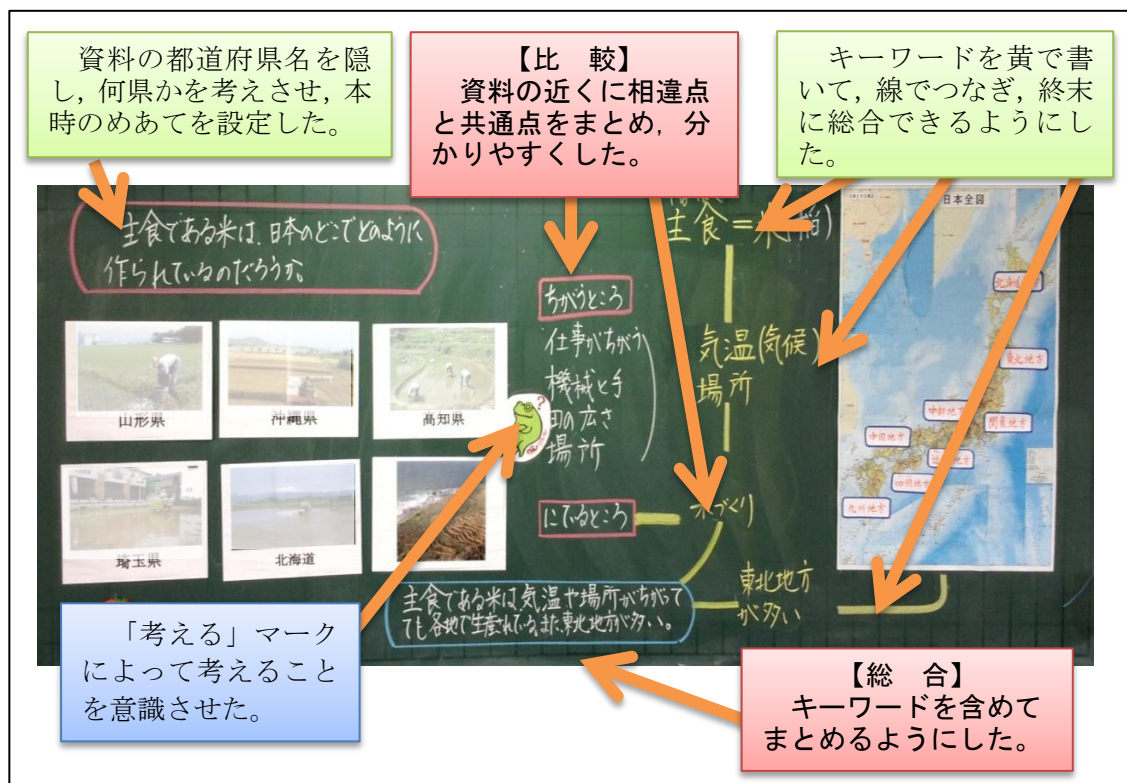


図11 第1時の板書

エ 第6時における児童のノートと板書の様子

(ア) 児童のノート例

第6時において、まとめさせた（総合）児童のノートは、図12のようになった。

図12 第6時における児童のノート

(イ) 板書の様子

第6時の板書では、児童が「思考の方法」を意識できるようにするために、図13のように資料の配置を考慮したり、事象間を線で結んだりして構造化を図った。

図13 第6時の板書

(3) 検証授業Ⅰの考察

検証授業Ⅰから以下のような成果と課題が得られた。

ア 成果

比 較	相違点や共通点を考えることで事実の把握や特色を捉えたり、資料から多くの事実を見付けることに楽しさを感じたりする姿が見られた。
関連付け	児童は様々な観点から考えたり、比較によって見付けた事実を根拠にしたりして、ノートに書く姿が見られるようになってきた。
総 合	キーワードを基に、学習のまとめが自分なりにできたことで、児童は自信をもち、これからも自分でまとめたいという思いをもたせることにつながった。
学習過程	「どの段階で何を指導すべきか」が明確になり、1単位時間における社会的事象の意味を捉えさせる授業が構成しやすくなった。
板 書	資料の配置、矢印、色チョークの使い分けは、社会的事象の意味を捉えさせることに効果的であることが分かった。

イ 課題

関連付け	児童が考えやすくなるような「関連付け」の発問や補助発問との関係を明らかにした発問の構成を考える必要がある。
板 書	「比較」、「関連付け」、「総合」について、それぞれを板書で視覚的に児童に意識させる手立てを工夫する必要がある。

(4) 検証授業Ⅱに向けての改善

検証授業Ⅰを通して、社会的事象をよりよく捉えさせるために、特に、「関連付け」と板書について改善し、手立てを工夫することにした。

ア 「関連付け」の発問の工夫

児童が事象間の関連を捉えることができるようにするために、「なぜか。」の発問に、比較する対象を含めて発問する工夫が必要であると考えた。

例えば、検証授業Ⅰの第6時における関連付けの発問の中の一つに、「岡部さんたちは、なぜ、ヘリコプターで農薬をまくことに決めたのだろうか。」がある。この発問自体は、多面的に社会的事象の意味を考えることができる。しかし、児童によっては、「人間にとって

安全」、「農薬代の節約」、「作業時間の短縮」、「環境にやさしい。」などの答えが多数あり、どれを答えればよいかわかりにくい。そこで、「歩いてまくことができるのに、なぜ、ヘリコプターで農薬をまくことに決めたのだろうか。」と発問することで、「歩いて農薬散布する様子」と「ヘリコプターで農薬散布する様子」を比較し、そこから得られた相違点を根拠として、考えさせることができる（図14）。

イ 発問の構成の手立て

基本発問と補助発問のつながりを明確にすることで、「思考の方法」を生かした発問を児童の思考に沿って効果的にすることができると考えた。

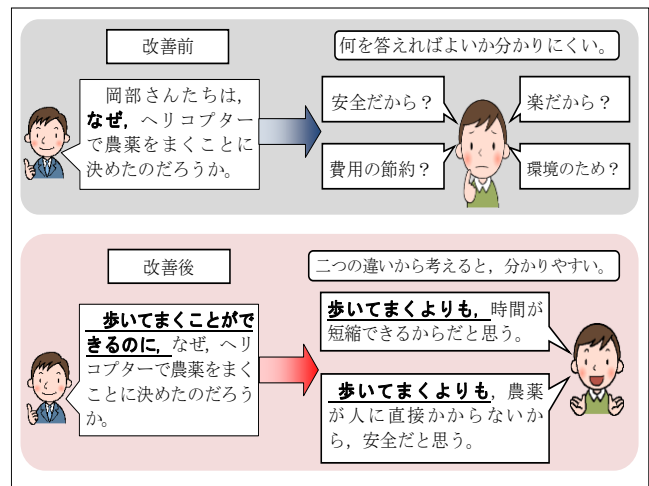


図15は、「思考の方法」を生かした発問を基本発問、それを効果的にする発問を補助発問として、発問を構成したものである。

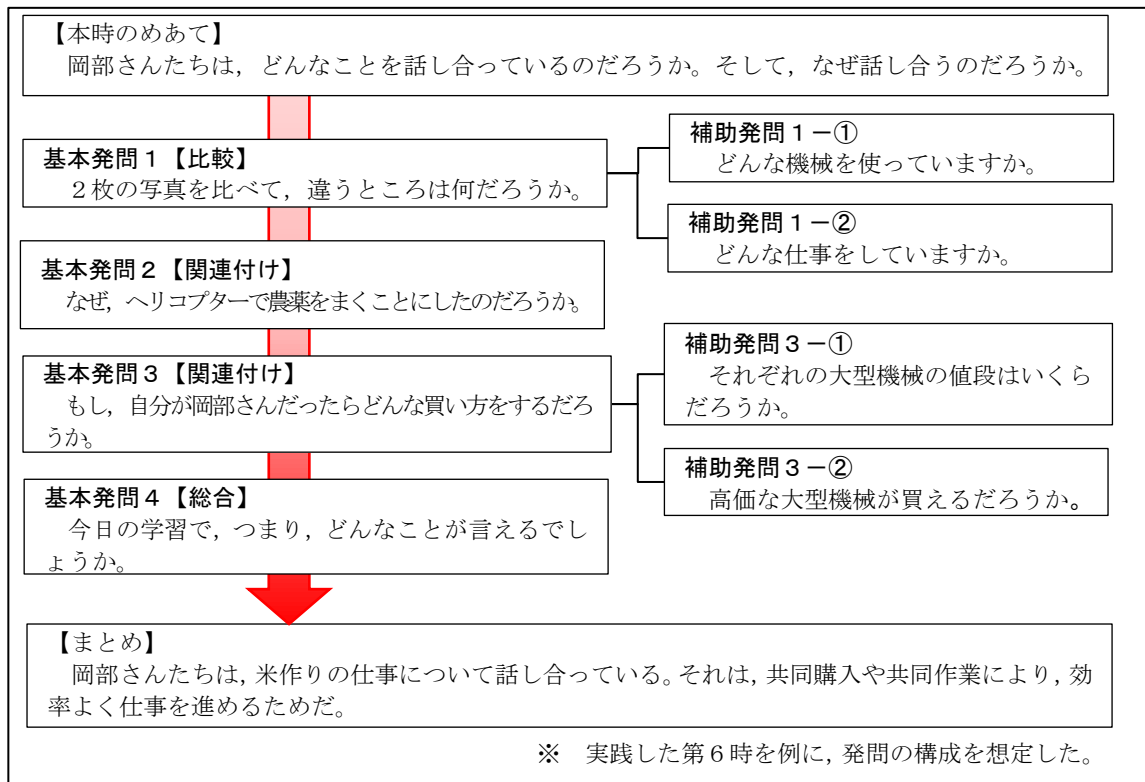


図15 発問の構成

ウ 「思考の方法」を意識させる板書の工夫

図16は、児童に「思考の方法」をより視覚的に意識させるために、理解しやすい言葉に変換したものである。思考の方法を表す言葉をカードにして、板書に取り入れることで、児童は、「今は、〇〇と〇〇を比べる。」「【比較】、「〇〇と〇〇をつなげて考える。」「【関連付け】、「つまりを使って、分かったことをまとめる。」「【総合】ことを意識できるようになっていくと考えた。

思考の方法	言 葉
比 較	くらべると
関 連 付 け	つなげると
総 合	つ ま り

図16 思考の方法を表す言葉

例えば、検証授業Ⅰ第6時の板書に、カードを取り入れる様子を想定すると、図17のようになる。

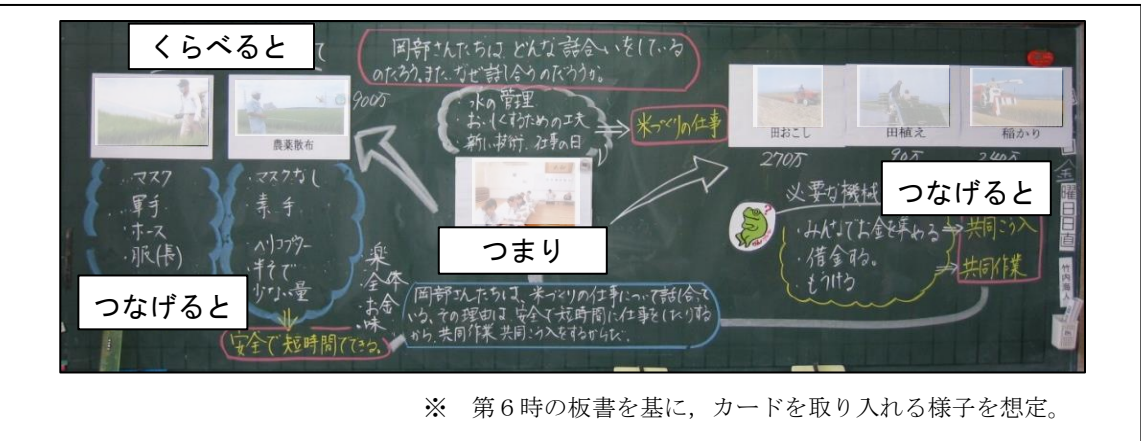


図17 板書にカードを取り入れた例

5 検証授業Ⅱの実際

検証授業Ⅱでは、検証授業Ⅰで検証した「思考の方法」を生かした「比較」、「関連付け」、「総合」の発問による児童の反応について継続して検証する。特に、「関連付け」の発問や板書の工夫によって、具体的事実を基に考えたり、「思考の方法」を意識させたりすることができたかを児童の反応やノートの記述内容を見取って検証する。

(1) 検証授業Ⅱの概要

ア 小単元名 「自動車をつくる工業」

イ 小単元の目標

- (ア) 我が国の自動車の生産の様子について関心をもち、意欲的に取り組むことができる。
- (イ) 高品質で安全な自動車を生産し、消費者へ早く届けるために、生産や輸送等の工夫や努力をしていることについて考え、適切に表現することができる。
- (ウ) 自分の調べたことや分かったことを明確にするために、文や図で表したり、まとめたりすることができる。
- (エ) 安全で高品質な自動車の生産の工夫や努力、完成した自動車をできるだけ早く消費者に届ける運輸の働きなどは、国民の生活の向上に役立っていることを理解することができる。

ウ 学習内容の構造化

小単元「自動車をつくる工業」において、10時間の学習内容を下の図のように捉え、整理した。第3時は、自動車がどのように生産されているのかを教科書や資料集、パンフレットを基に調べる時間として設定し、第4時で「品質のよい自動車生産をするため、機械と人間のよさを生かしていること」を捉えさせる時間として計画した（図18）。

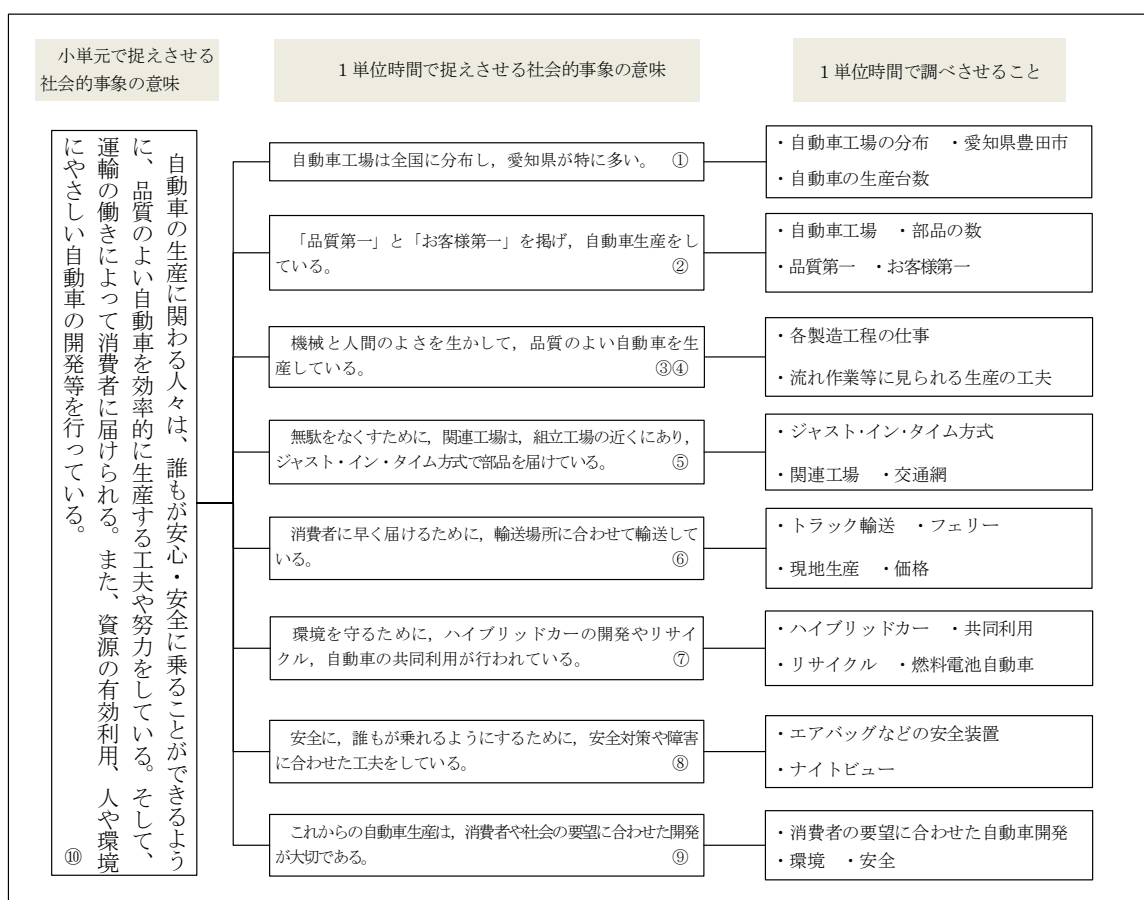


図18 小単元「自動車をつくる工業」における学習内容の構造化

エ 学習内容の構造化と関連させた小単元の指導計画

検証授業Ⅰと同様に、以下のように整理して指導計画を作成した。

指導計画 小単元「自動車をつくる工業」 全10時間

過程	学習活動	時数	各時間で捉えさせる社会的事象の意味
つかむ	1 日本の自動車産業の様子について調べる。	①	○ 日本の自動車工場は全国に分布し、愛知県が特に多い。
	2 事前に書いた注文書や注文通りに正確に自動車を生産する事実等から学習問題を設定する。	②	○ 「品質第一」と「お客様第一」を掲げ、自動車生産をしている。
	自動車をつくる人たちは、どのようにして、まちがえずに多くの自動車を作っているのだろうか。また、どのようにして届けられるのだろうか。		
調べる	3 学習問題について予想し、調べる計画を立てる。 ○ 自動車生産の工夫や努力 ○ 届け方		
	4 組立工場で自動車がどのように生産されているか調べる。	③	(児童一人一人による調べ活動)
	5 機械にさせる作業と人間がする作業を比較し、そのように行う理由を考える。	④	○ 機械と人間のよさを生かして、品質のよい自動車を生産している。
	6 関連工場の仕事や立地について調べたり、部品の輸送方法を比較したりして、ジャスト・イン・タイム方式で部品を届ける理由について考える。	⑤	○ 無駄をなくすために、関連工場は、組立工場の近くにあり、ジャスト・イン・タイム方式で部品を届けている。
	7 自動車の輸送について調べたり、輸送場所を比較したりして、輸送の工夫や現地生産をする理由について考える。	⑥	○ 消費者に早く届けるために、輸送場所に合わせて輸送方法の工夫をしている。
	8 ハイブリッドカーの開発やリサイクル、共同利用の様子について調べ、それらに取り組む理由について考える。	⑦	○ 環境を守るために、ハイブリッドカーの開発やリサイクル、自動車の共同利用が行われている。
	9 安全対策をしたり、障害に合わせた自動車生産をしたりする理由について考える。	⑧	○ 安全に、誰もが乗れるようにするために、安全対策や障害に合わせた工夫をしている。
	10 これから求められる自動車について考える。	⑨	○ これからの自動車生産は、消費者や社会の要望に合わせた開発が大切である。
まとめる	11 学習のまとめをする。	⑩	自動車の生産に関わる人々は、誰もが安心・安全に乗ることができるよう、品質のよい自動車を効率的に生産する工夫や努力をしている。そして、運輸の働きによって消費者へ届けられる。また、資源の有効利用、人や環境にやさしい自動車の開発等を行っている。 【小単元における社会的事象の意味】

(2) 検証授業Ⅱの実際

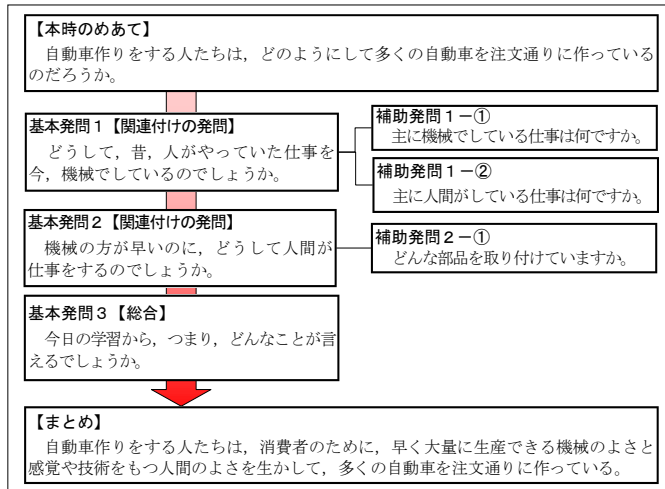
ア 第4時

(ア) 本時における「思考の方法」を生かした発問について

本時のねらいは、「品質のよい自動車を効率よく生産するために、早く大量に作る『機械のよさ』と感覚に優れた『人間のよさ』を生かしていることを捉えさせることである。そこで、機械のよさを捉えさせるために、手作業でしていたころの様子と比較し、機械です

るようになった理由を考えさせる。次に、人間のよさを捉えさせるために、機械の作業と比較させ、人間が作業する理由を考えさせる。

このような本時のねらいを達成するために、本時の発問を以下のように構成した(図19)。



機械の仕事を補助発問 1-①で確認させる。次に、昔の溶接の写真を提示して基本発問 1 をすれば、昔と現在の仕事を比較して考えることができる。



補助発問 1-②で、人間のしている仕事を確認させる。次に、基本発問 2 をすれば、機械と人間を比較して、「人間のよさ」を考えることができる。



図19 第4時の発問の構成

(イ) 実際

学習過程	児童の主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
つかむ	1 前時で調べたことを想起し、本時のめあてを設定する。 自動車作りをする人たちは、どのようにして多くの自動車を注文通りに作っているのだろうか。	○ 前時で調べたことを想起させ、本時のめあてを意識させる。
調べる	2 各製造工程の様子を比較し、「機械でする仕事」と「人間がする仕事」に分ける。 3 組立ラインの映像を見て、感想を発表する。 4 機械で溶接する理由について考える。【学習活動4】 5 人間がしなければならない作業の理由について考える。【学習活動5】	資 写真 各製造工程の様子 ○ 各製造工程の様子を確かめながら「主に機械でする仕事」と「主に人間がする仕事」があることを捉えさせる。 資 ビデオ 組立ラインの様子 ○ 映像を見て、効率よく組み立てられていることを捉えさせる。 資 写真 約40年前の溶接の様子 ○ 機械で溶接する理由を、「安全に」、「早く」、「大量に」生産できることと関連付けて捉えさせる。 ○ 人間が作業する理由を人間の感覚、「人間の技術」等と関連付けて捉えさせる。
まとめる	6 学習のまとめをする。【学習活動6】 自動車作りをする人たちは、消費者のために、早く大量に生産できる機械のよさと感覚や技術をもつ人間のよさを生かして、多くの自動車を注文通りに作っている。	○ 「機械のよさ」、「人間のよさ」などのキーワードを基に、本時の学習のまとめをさせる。

学習活動4 機械で溶接する理由について考える。【関連付け】

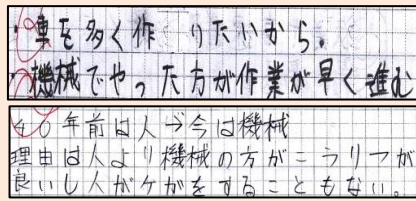


写真6 児童が書いた理由



写真7 児童の考えを関連付ける様子

T 約40年前の自動車工場で働いている人を見て、何か気付きますか。

C 人が溶接の仕事をしている。

T 昔、人が溶接をやっていました。今は？

C 機械。

T **関連付け** なぜ、人がやっていた溶接の仕事を、今は機械でしているのでしょうか。

C たくさん自動車を作るため。【効率面】

C 火花が散って危ないから。【安全面】

C 機械の方が早くできる。【効率面】

C 正確にできる。【効率面】

T 機械ですということは・・・。

C 安全に作るとか大量に作るために機械です。

T このようにみんなが考えた理由があるから機械でしているんだね。

学習活動5 人間がしなければならない作業の理由について考える。【関連付け】

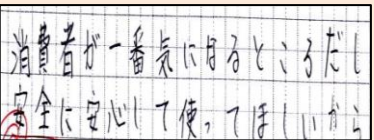
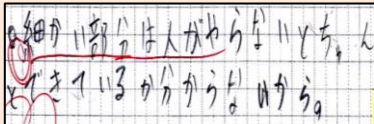
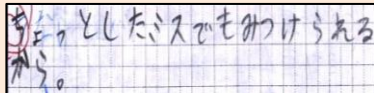


写真8 児童が書いた「人間が仕事をする理由」

T 組立では、どんな部品を取り付けていたかな。

C エンジン、タイヤ、シート、フロントガラス。

T 組立も溶接のように、機械ですればいいのに、機械でしていないね。

T **関連付け** 機械ですれば早く大量にできるのに、なぜ、人間がわざわざ仕事をしているのでしょうか。

C ちょっとしたミスを見付けられるから。

【人間の感覚のよさ】

C 細かい部分は人がやらないとちゃんとできているか分からないから。【人間の技術】

C 機械だけですと、自動車に傷をつけても気付かないから。【人間の感覚のよさ】

T 「組立」と「検査」で、主に人間が仕事をしているのは・・・。

C 丁寧に、きちんと作ることができるから。

T このような理由があるから、「組立」、「検査」は主に人間が仕事をしているんだね。

学習活動6 学習のまとめをする。【総合】



写真9 記述内容を見届ける様子

T 今日めあてを読んでごらん。

C (めあてを読む。)

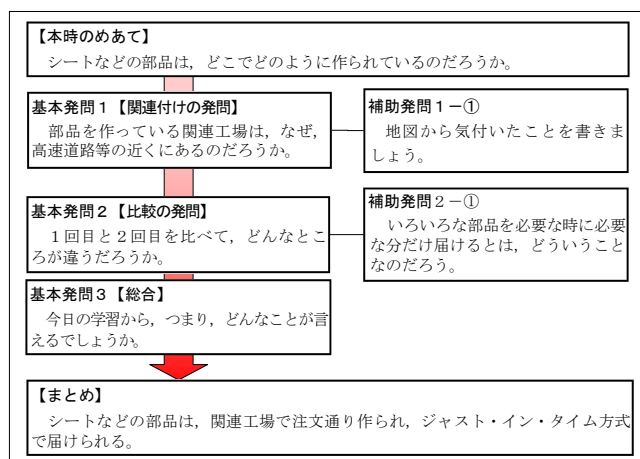
T **総合** つまり、自動車を作る人たちはどのように作っているのかな。

イ 第5時

(ア) 本時における「思考の方法」を生かした発問について

本時のねらいは、「関連工場は、早く部品を届けるために高速道路や組立工場の近くに立地し、ジャスト・イン・タイム方式で必要な部品を届けている。」ことを捉えさせることである。まず、関連工場が高速道路や自動車工場の近くにある理由を、「早く部品を届ける」とことと関連付けて考えさせる。次に、ジャスト・イン・タイム方式のよさに気付かせるために、「一定の数の部品を定期的に届ける場合」と「必要な時に必要な数だけ部品を届ける場合」を比較して、それぞれの届け方によって、どんな結果になるのかを確かめる。

以上のことから、本時の発問を図20のように構成した。



補助発問1-①で地図から「高速道路」、「鉄道」等を調べさせ、基本発問1をすれば、調べたことを基に考えることができる。



補助発問2-①をしてから活動を実施する。次に基本発問2をすれば、問題意識をもって、1回目と2回目の結果を比較して考えることができる。



図20 第5時の発問の構成

(イ) 実際

学習過程	児童の主な学習活動	教師の具体的な働き掛け
つかむ	1 シートなどの部品について、疑問点を明確にしながら本時のめあてを設定する。 シートなどの部品は、どこでどのように作られているのだろうか。	○ 組立工場での作業を確認し、シートなどの部品はどこで作られているかを予想させ、本時のめあてに問題意識を焦点化する。
調べる	2 どこでどのように作られているか調べる。 3 高速道路や組立工場周辺に関連工場がある理由について考える。 [学習活動3] 4 届ける方法を比較し、ジャスト・イン・タイム方式の特色について考える [学習活動4] 必要な時に必要な数だけ届ける方法だと、無駄が出ないね。	資 関連工場周辺地図 ○ 予想をさせ、教科書や資料集を基に調べさせる。 ○ 関連工場の立地理由を、部品の輸送と関連付けて捉えさせる。 資 模型（シート及び自動車） ○ 代表児童に「①定期的に一定の数を届ける方法」と「②必要な時に必要な分だけ部品を届ける方法」で実際にシートを届けさせる。その後、結果を比較し、②の届け方では、在庫がないことに気付かせる。
まとめる	5 学習のまとめをする。 [学習活動5] シートなどの部品は、関連工場で注文通り作られ、ジャスト・イン・タイム方式で届けられる。	○ 「関連工場」、「ジャスト・イン・タイム方式」等のキーワードを基に、本時の学習のまとめをさせる。

学習活動3 高速道路や組立工場の近くに関連工場がある理由について考える。【関連付け】



写真10 児童の考えを
関連付ける様子

T (関連工場の周辺地図を指して) この地図から、3つ以上
気付いたことをノートに書きましょう。

T 発表してください。

C 自動車工場の近くにありません。

C 関連工場が多いです。

C 高速道路と鉄道の近くにありません。

T **関連付け** いろいろな部品を作っている関連工場は、な
ぜ、自動車工場や高速道路の近くにあるのだろう。

C 荷物がすぐ電車や車で自動車工場に運べるから

【早く届けることへの気付き】

C 作ったものを傷付けないで早く届けるため

【品質維持と早く届けることへの気付き】

T 高速道路の近くにあるのは・・・。

C 早く部品を届けるため。

学習活動4 届ける方法を比較し、ジャスト・イン・タイム方式の特色について考える。【比較】



写真11 操作活動の様子

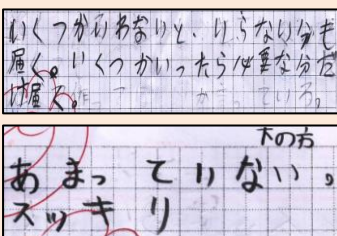


写真12 相違点を記述し
た児童のノート

T いろいろな部品を、必要な時に必要なだけ届けるとは、どうい
うことなのだろう。

T シート工場が作った分を自動車工場に届ける場合で考えよう。

T シート(複数)ができたので工場に届けてください。

C 〈シート工場役〉 はい。

C 〈自動車工場役〉 (シートを一個ずつ貼る。)

T 次のシートができたので届けてください。

C 〈シート工場役〉 はい。

C 〈自動車工場役〉 (余ったシートを完成車の横に貼る。)

T では、今度は必要な数だけ部品を作る場合を考えよう。

C 〈自動車工場役〉 シートを4個作って届けてください。

C 〈シート工場役〉 4個ですね。(自動車工場に届ける。)

T **比較** 1回目と2回目を比べると何が違うかな。

C 無駄なシートが減る。

【環境への気付き】

C 1回目はあまってシートが無駄だけど、2回目は余らな
く、シートが無駄にならない。

【無駄を減らすことへの気付き】

T 1回目と比べて、2回目は無駄が出ませんでしたね。

学習活動5 学習のまとめをする。【総合】

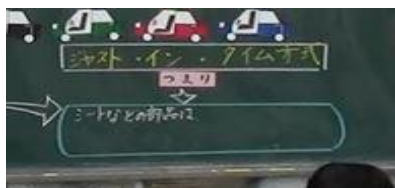


写真13 書き出しを示した
板書

T 今日の内容をまとめて読んでごらん。

C (めあてを読む。)

T **総合** つまり、どこでどのように作っているの
かな。キーワードを使ってまとめよう。

ウ 第4時における児童のノートと板書の様子

(ア) 児童のノートの様子

第4時において、まとめさせた（総合）児童のノートは、図21のようになった。

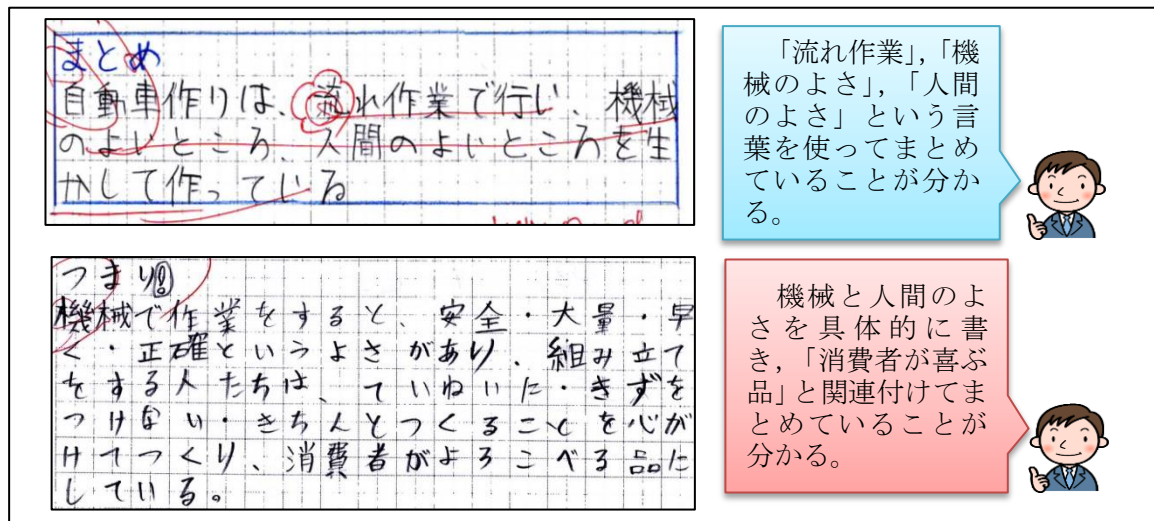


図21 第4時における児童のノート

(イ) 板書の様子

第4時の板書は、組立工場でのどのように自動車が生産されているのかを視覚的に捉えさせるために、各工程の様子を表した写真を、図22のように、組み立てる順序に合わせて並列に配置するなどの工夫をした。

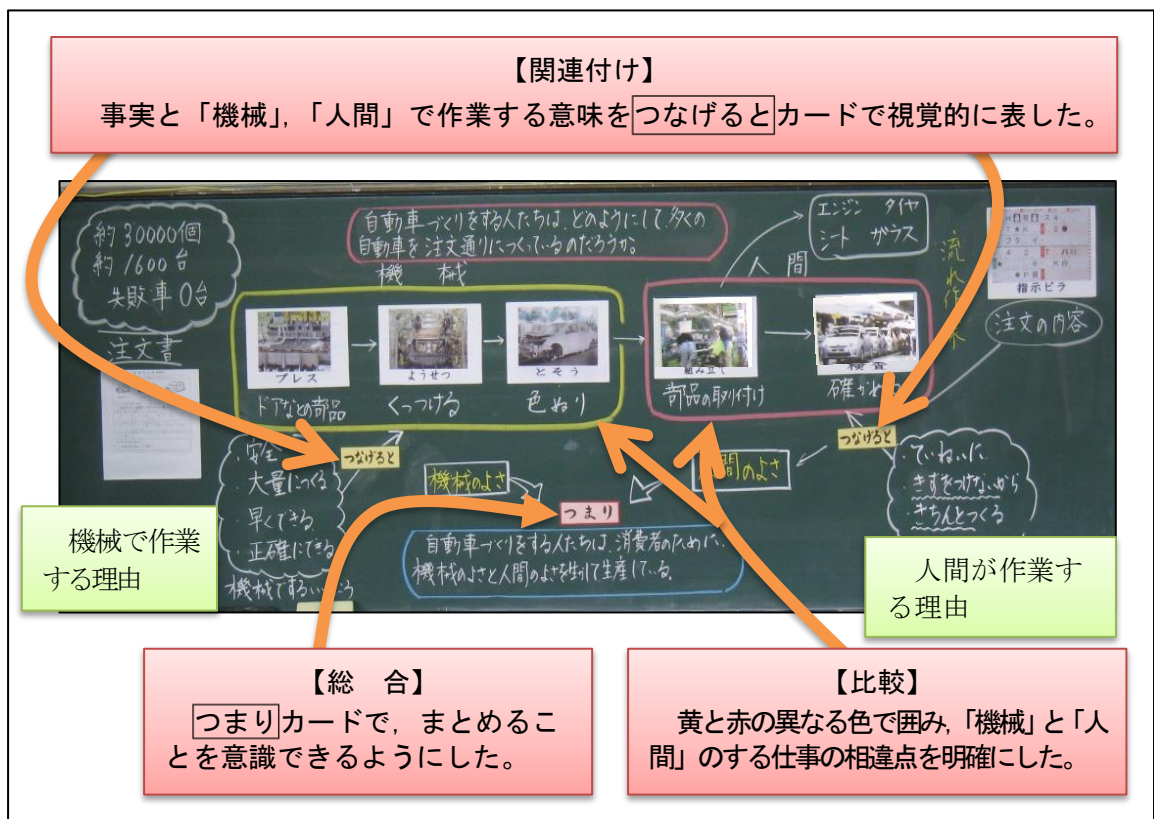


図22 第4時の板書

エ 第5時における児童のノートと板書の様子

(ア) 児童のノートの様子

第5時において、まとめさせた（総合）児童のノートは、図23のようになった。

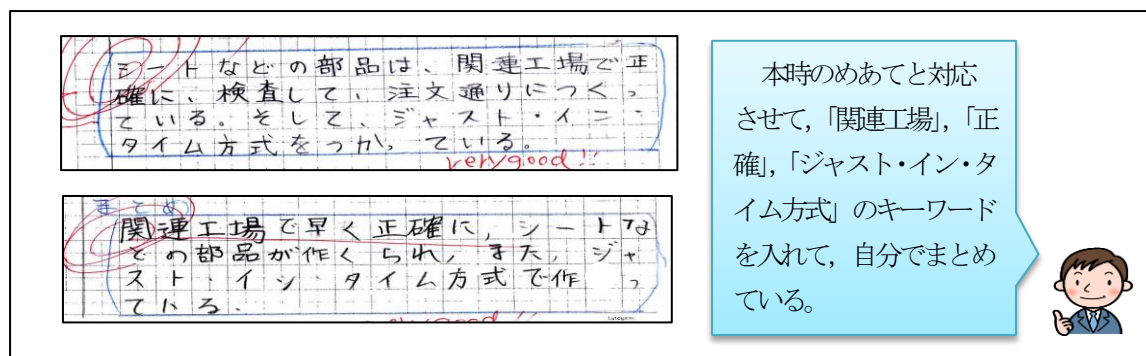


図23 第5時における児童のノート

(イ) 板書の様子

第5時の板書では、図24のように、黒板の中心に模型を配置するなどの工夫をした。

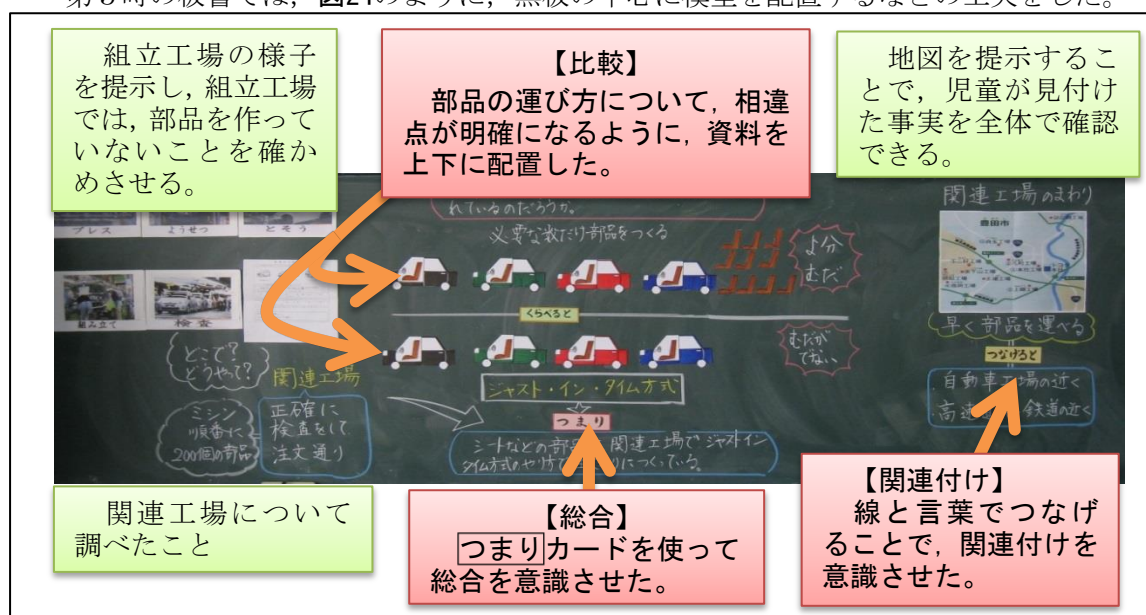


図24 第5時の板書

(3) 検証授業Ⅱの考察

検証授業Ⅰの改善点を踏まえた検証授業Ⅱから、以下のような成果と課題が得られた。

ア 成果

比 較	「違いを見付けるのが楽しい。」「分かりやすくなる。」など、比較の機能を実感し、積極的にノートに記述する姿が見られた。
関連付け	比較の視点を含めた関連付けの発問によって、「○○の方が～だから、○ ○だと思う。」という考え方で、ノートに書いたり、発表したりすることができた。また、発問を構成することで、「どんな発問で問えばいいのか。」「どんな補助発問が必要か。」「どんな順番で問えばいいのか。」が明確になり、児童の思考に沿って発問することができた。
総 合	「いろいろなことが分かる。」「自分で考えたことを書ける。」など、総合の機能や社会的事象の意味を捉える楽しさを実感する姿が見られた。
学習過程	「思考の方法」を生かした学習活動を位置付けた授業の構成を続けたことで、児童は、学習の仕方を理解し、進んでノートに自分の考えを書く姿が見られた。
板 書	「くらべると」、「つなげると」、「つまみり」の言葉を使うことで、「比較」、「関連付け」、「総合」を意識するようになってきた。また、これらの言葉を使って、ノートに自分の考えを書く児童が増えてきた。

イ 課題

関連付け	学習内容や児童の実態に合わせて、「比較の視点を含めた関連付けの発問」と「なぜか。」の発問の使い分けをすることが必要である。例えば、社会的事象に対し、児童にとって未知のことや具体的に関連を捉えさせたい場合は、「比較の視点を含めた関連付けの発問」をし、既知の知識や情報を知っている場合には、多面的に考えさせる「なぜか。」の発問をするといった使い分けを考慮する必要がある。
板書	「比較」を示す「くらべると」カードについては、「ちがい」や「同じこと」、「関連付け」を示す「つなげると」カードについては、「だから」や「～のために」などより具体的な言葉で表して黒板に取り入れる必要がある。このことによって、児童は、相違点、共通点、関連を明確に意識しながら社会的事象の意味を捉えていくことができると考えられる。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 学習内容の構造化や授業の構成、「思考の方法」を生かした発問によって、教師は、毎時間の学習における社会的事象の意味について意識し、どのような資料でどのように捉えさせてくのかを明確にして指導することができた。
- (2) 児童は、「思考の方法」のよさを感じたり、自分なりの考えをもつことの大切さを意識したりするようになってきた（図25、図26）。
- (3) 「思考の方法」を生かした学習指導によって、児童は、社会的事象の意味を捉えられるようになってきた。また、自分の考えを付加して書く児童が見られた（図27）。
- (4) 矢印やカードによる板書の工夫によって、児童に「思考の方法」を視覚的に意識させることができた。

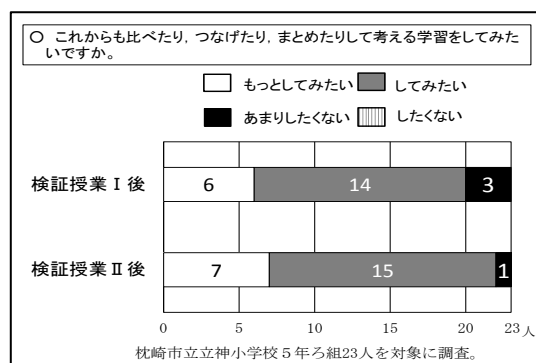


図25 思考の方法についての意識

比較	☐ 比べることが楽しい。 ☐ 違いが分かるのが楽しい。 ☐ 比べると分かりやすい。
関連付け	☐ つなげることは楽しかった。 ☐ つなげるといろいろなことが分かる。 ☐ つなげると分かりやすくなる。
総合	☐ 自分で振り返ることができる。 ☐ 大切なことが一目で分かる。 ☐ 自分だけのまとめ方ができる。

図26 児童が感じた思考の方法のよさについて ※ 主な記述のみ

2 今後の課題

- (1) 児童に考える楽しさを十分に感じさせ、広い視野から社会的事象の意味が捉えられるようにするために、「思考の方法」を生かした社会科学習指導を今後も継続し、児童に経験を積ませていくことが必要である。
- (2) 「比較」、「関連付け」、「総合」以外の「思考の方法」について、その機能と指導の在り方を検証していく必要がある。
- (3) 話し合いの中で、児童自身が「思考の方法」を用いて考えられるように、対話や交流の在り方について研究する必要がある。

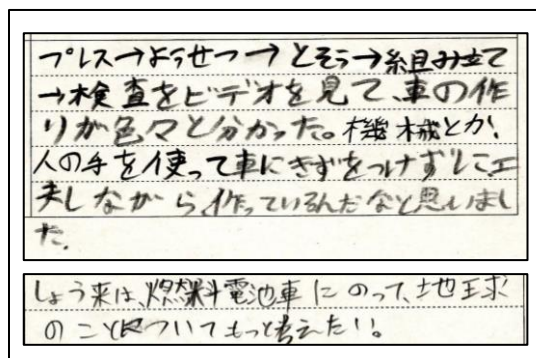


図27 児童のノート

【引用文献】

- *1) 森分孝治, 片上宗二編 『社会科重要用語300の基礎知識』 2000年 明治図書
- *2) 大森照夫編 『社会科教育指導用語辞典』 1986年 教育出版
- *3) 澤井陽介 『小学校社会 授業を変える 5つのフォーカス』 2013年 図書文化社
- *4) 社会科教育研究センター編 『いまこそ社会科探究学習』 2010年 三晃書房

【参考文献】

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説社会編』 平成20年
東洋館出版社
- 岩田一彦 『社会科固有の授業理論・30の提言』 2001年 明治図書
- 岡崎誠司 『社会科の発問 “If－then” でどう変わるか』 1995年 明治図書
- 小原友行 『小学校新社会科授業の基本用語辞典』 1999年 明治図書
- 小原友行 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン』 2009年 明治図書
- 大森照夫 『やりがいのある社会科指導』 平成2年 図書文化社
- 大森照夫 『社会科基本用語辞典』 1973年 明治図書
- 鹿児島大学教育学部附属小学校 『社会科年間プラン』 平成14年
- 北俊夫 『なぜ子どもに社会科を学ばせるのか』 2012年 文 溪 堂
- 北俊夫 『社会科学力をつくる “知識の構造図”』 2011年 明治図書
- 北尾倫彦編 『思考力・判断力』 1995年 図書文化社
- 社会科教育研究センター 『いまこそ社会科探究学習』 2010年 三晃書房
- 田山修三 『若い教師を育てる図解式板書術』 2010年 小 学 館
- 廣島憲一郎編 『小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり社会』 平成20年
東洋館出版社
- 吉川幸男
山口社会科実践研究会著 『「差異の思考」で変わる社会科の授業』 2002年 明治図書

長期研修者〔 中村 勝也 〕

担 当 所 員〔 宮内 隆靖 〕

【研究の概要】

本研究は、思考の方法を生かした社会科学習指導の在り方について研究したものである。

具体的には、社会的事象の意味を捉えさせる意義について整理した上で、思考の方法である「比較」、「関連付け」、「総合」の機能を明らかにした。また、学習内容の構造化を図り、思考の方法を生かした学習過程や教師の発問、板書の在り方を工夫し、授業で検証した。

その結果、児童は思考の方法のよさを実感し、どのように考えたらよいかを理解することができた。また、社会的事象の意味をよりよく捉えていく児童の姿が見られた。

【担当所員の所見】

本研究は、小学校社会科の学習において、「比較」、「関連付け」、「総合」などの思考の方法を生かして、児童に「社会的事象の意味」を捉えさせることについて研究してきたものである。

小学校社会科における思考力は、社会的事象の意味や特色、相互の関連などについて考える力であり、学習指導要領解説社会編においても、「社会的事象の意味」を広い視野から考える力を身に付けることが求められている。

本研究のよさは、以下の２点に集約される。

第一に、具体的な授業場面において、思考の方法を生かした発問や板書構成の工夫により社会的事象の意味を捉えさせようとしており、実践的な研究であるということ。

第二に、学習内容を分析、構造化し、内容に応じて思考の方法を指導計画に位置付けることで、授業構成の最適化を図ろうとしたこと。

今後は、児童が思考の方法を更に意識して、考えを交流することで、より広い視野から社会的事象の意味を捉えることができるように、本研究を礎にした実践研究の継続を期待したい。